

今年4月、名寄市
立大学看護学科に着

名寄で迎えた新たな一歩

任し、基礎看護学領域の教員として新たな一歩を踏み出しました。看護師として臨床現場で働いてきた私にとって、学生たちとともに学ぶ毎日、新鮮で挑戦の連続です。

名寄に来てまず驚いたのは、春の雪でした。4月といえば桜が咲く季節だと思っていきましたが、名寄ではまだ雪が降る日もあります。まるで季節が逆戻りしたようで、不思議な気持ちになりました。

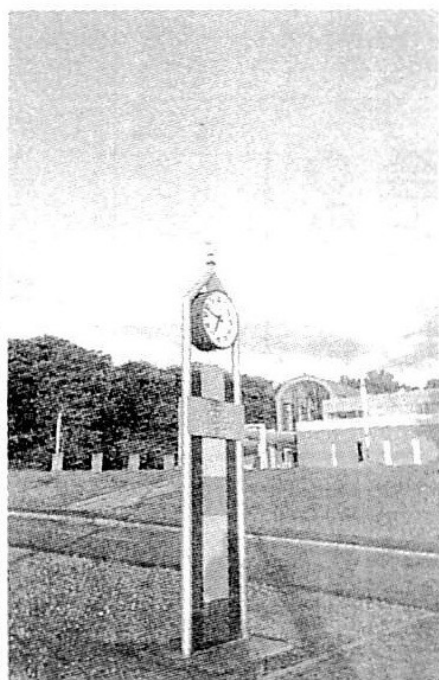
夏がやってききました。今年の夏は、学生たちと病院での臨地実習に取り組み、忙しくも充実した日々を過ごしました。慣れない環境で懸命に学ぶ学生たちの姿に触れ、私自身も多くのことを学びました。

夏は暑さをゆっくり味わう間もなく、季節は移っていきましました。気がつけば、名寄には秋が訪れていました。大学では後期の授業が始まり、演習や実習の準備など、前期以上に忙しい毎日です。

を耳にしまし

た。名寄の冬はどれほど寒いのだろう、どんな雪景色が見られるのだろう。そんなことを想像する間もなく、冬の足音が近づいています。

振り返れば、名寄で過ごした半年余りは、まるで時計の針が早回しで進んでいるかのようでした。慣れないことも多くありましたが、周囲の先生方に支えられ、学生たちの成長を身近に感じながら、少しずつ新しい環境に馴染んできました。これからの四季の移ろいを感じながら、学生たちとともに一歩ずつ前に進んでいきたいと思ひます。



看護学科助教

刘 萌